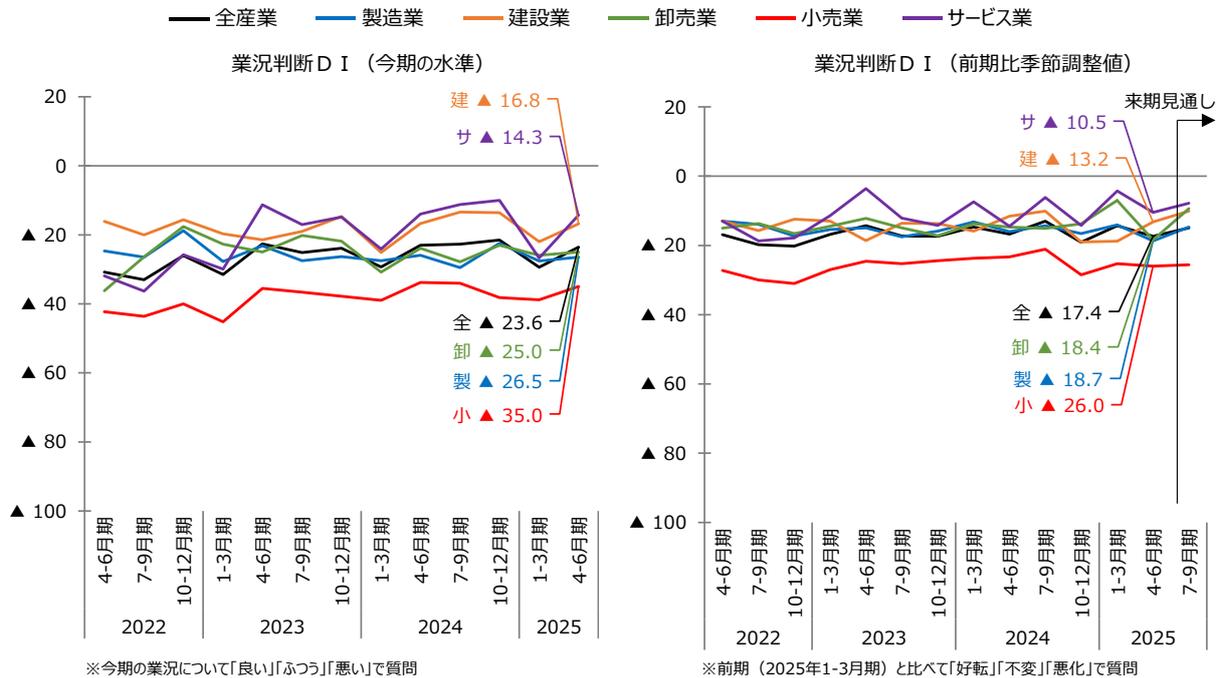


第180回 中小企業景況調査（2025年4-6月期） 中国



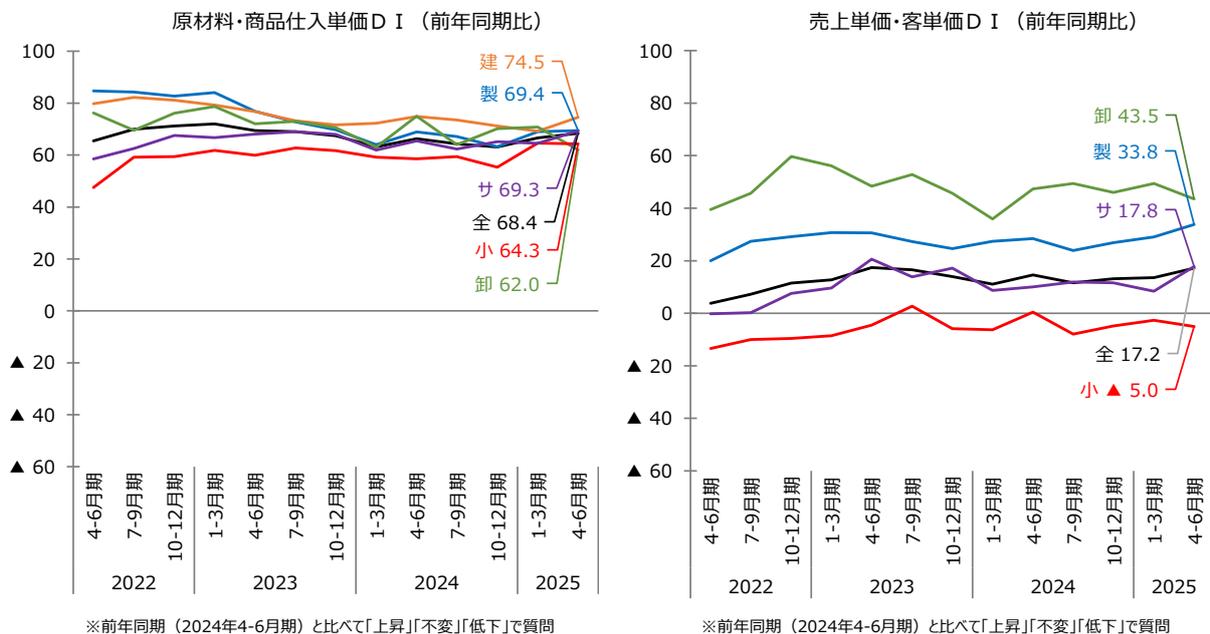
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年1-3月期）より5.8ポイント増の▲23.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.8ポイント増の68.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.6ポイント増の17.2と3期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,841 有効回答企業数：17,899 有効回答率：95.0% うち、中国：1,644企業

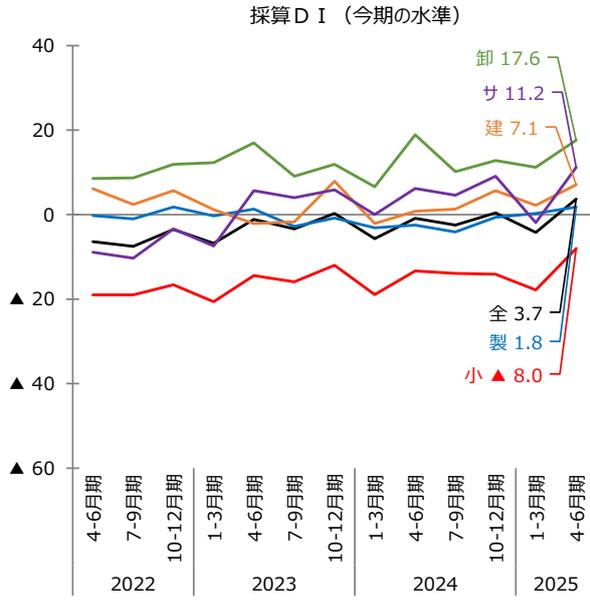
※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

第180回 中小企業景況調査（2025年4-6月期） 中国



3. 採算

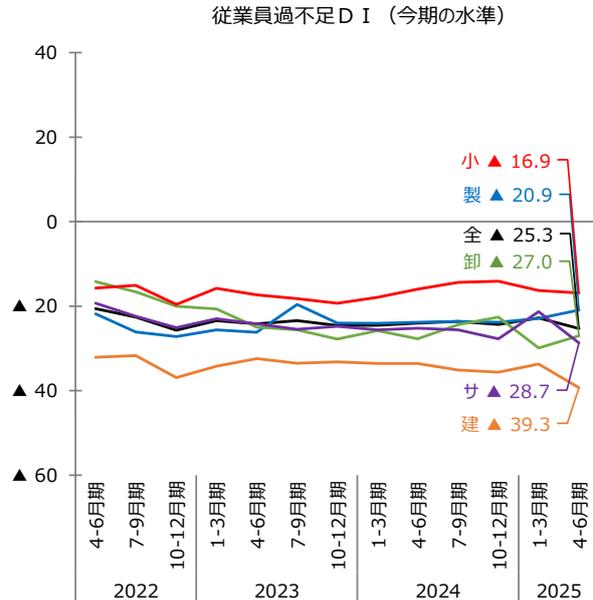
採算DIは、全産業で前期より7.9ポイント増の3.7と2期ぶりにマイナスからプラスに転じた。産業別にみると、5業種すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.5ポイント減の▲25.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、建設業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	みその原料である米が入手できない。仕入れも高く採算割れになる。主力であるわさび製品の原料も自社だけでは不足しているが、近隣での仕入が難しい。	製造業 野菜漬物製造業（缶詰、瓶詰、つぼ詰を除く）
	工事の引き合いは増加したが、契約後、材料費等が値上がりし回収時に利益が減少してしまう。先を見越した見積りを立てることが非常に難しく、外注を減らし社内で施工することが増えた。	建設業 給排水・衛生設備工事業
	F A 事業は製造業の設備投資が回復基調にあり、受注は増加傾向にある。空調事業はリニューアル需要が堅調であるが大口案件は少ない。脱炭素投資（太陽光発電・蓄電）は引き続き引き合いが多い。	卸売業 電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	道の駅等への販路を開拓、売り方の工夫（特定の曜日・時間限定）も功を奏し、売上増に繋がっている。	小売業 パン小売業（製造小売）
	新たな介護ソフトを導入して効率化が可能となり残業も減った。そのおかげで仕事が少しずつ増え、新たに従業員も採用できた。業界の状況は厳しいはまだ、やれる事は全てやっていきたいと思う。	サービス業 他に分類されない物品賃貸業
見通し	原材料価格の上昇に加え、原材料不足により、商品の値上げに踏み切ったが、それを上回る原材料価格の上昇により、価格転嫁が追いつかないのが現状。商品への記載事項も増え、新商品が製造しづらい。	製造業 ビスケット類・干菓子製造業
	本年は第1四半期に発注があり、昨年よりは発注時期は改善されたものの予定価額は少額で件数も少ない。本年6月から熱中症の法改正が行われ夏期工事の施工量が減ると思われる。3月から施工できる発注を望む。	建設業 舗装工事業
	米国関税政策による世界的な経済混乱を受け、我国の工業生産活動の減速が懸念され経営の悪化が予想される。	卸売業 その他の産業機械器具卸売業
	卸販売先の増加やイベントへの参加により客数、売上は伸びているが、仕入単価の上昇は終わりが見えない。価格改定したが転嫁しきれていない。再度の改定を行うべきか、客離れの懸念もあり難しい判断が続いている。	小売業 茶類小売業
	利用者数、売上など業況は好転しているが、飲食店の場合、材料価格や経費の増加を価格に転嫁しづらく、採算としてはトントンか悪化している。厳しい状況は今後も続くと思われる。	サービス業 食堂、レストラン（専門料理店を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。